

研究目的：

社会的損失や健康面に影響の大きい腰痛への対策を包括的に推進すること

研究方法

平成26年度

平成27年度

平成28年度

研究全体の統括  
松平

小山  
(産業医学)

岡  
(統計学)

勝平  
(人間工学、福祉工学)

野村  
(産業理学療法士)

三好  
(臨床医学)

研究協力  
労災病院グループ  
小西 山縣 岡崎 高野 浅田

高井  
(看護学)

集積済みの前向き研究・介護看護従事者を含むデータベースの再構築

①介護看護従事者の腰痛に関わる実態およびリスクの同定

②予防に有用な福祉機器・ツールおよび新たなリスク同定法の開発

- 腰痛対策用体幹装具の実地検証（介護看護従事者）
- 職務中前屈の定量評価用器具の開発
- バイオマーカー：酸化バランス
- 姿勢と脳機能

③介護看護従事者への予防介入とマネジメントシステムの構築

- 体操、福祉用具の導入、心理社会的アプローチによる腰痛対策
- 腰椎伸展体操の定着を主軸とした大規模介入比較試験（看護師、3,000名）

④個人と職場の双方に有益な腰痛治療と職業生活との両立支援手法の開発

- 腰痛対策のための両立支援のマニュアル・アプリケーション作成
- データベース分析

介護看護従事者における腰痛危険因子の効率的な同定

介護看護従事者における新たな予防・治療法の確立

職場において簡便に使用できる腰痛対策ツールの開発

⑤ 労働安全衛生マネジメントシステムを視野に入れた提言作成